

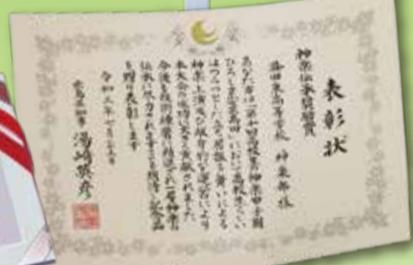
神楽に情熱を捧げた全国の高校生が成果を発表する、「高校生の神楽甲子園」が、7月24日(土)・25日(日)に広島県安芸高田市で開催された。関東地区からは静岡県、九州地区からは大分県など、5県15校が出場し、本校の神楽部7名は、初日の5番目にテンポの速い舞いでエネルギーに動き回る自信の演目「天神鬼」を上演した。唯一の女性の岩本七海さん(益田)は笛を担当。神楽の魅力は一言では表せないが、好きだという体の中を駆け巡る情熱は、幼い頃から今もなお消えることはないと言う。

この様子はYou Tubeでも公開された。高校生らしいはつらつとした立ち居振る舞いだったと、「神楽伝承奨励賞」を広島県知事より授与された。神楽の伝統を護っていく神楽愛好家たちに、さらなるパワーとなって神楽を生かした町おこしに貢献していくことになるだろう。一昨年、日本遺産に認定された石見神楽を、全国各地で年間40~50回は公演をしている生徒もいる。伝統芸能の存続は、愛好家の減少や時代の流れもあり課題が山積している。

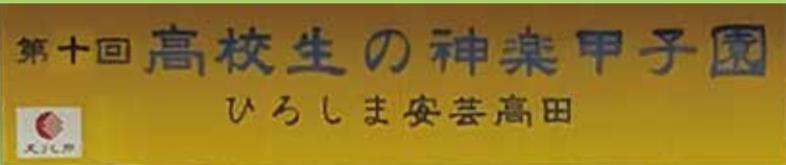
神楽部



神楽伝承奨励賞



7月10日(土)神楽部が演じているのを本校体育館でYou Tube 配信・TV用に撮影。



写真中央前1年 常永敬太郎(津和野)とその右後ろ1年 内橋征人(津和野)は、ふたりで幼い頃から遊びが神楽を舞うことだった。「天神鬼」で2人は菅原道真(内橋)と老松(常永)の神役を演じた。宿敵は左端の藤原時平(榎並)。早変わりや刀の立ち合いは、石見神楽の中で最も激しい演目の一つである。奇しくも学校の古典の授業は「大鏡」の道真左遷で「東風吹かば…」の単元を終えたばかり。観客の拍手に一層の喜びを感じるというふたりは、学校のモットーである「笑顔で明るく爽やかに楽しく」そのものであった。

7月中旬、地域の時代を担う高校生の健全な育成と地域文化活動の発展を願い、活動支援の一環として、JAしまね・JA共済連島根より支援金を贈呈していただきました。扇風機と自然の風の中で、文句ひとつ言わず太鼓を叩き笛を吹き所狭しと舞い続けている神楽部にとって、地域の方々のご理解とご支援はこの上なく力強い。安芸高田市で舞い終えて帰るや否や、動画配信用の撮影で夜遅くまで舞い続けた。体は疲れていてもお囃子が鳴り出すと、体の中心の血がたぎり、舞いたく体が自然に動き出すという。彼らを駆り立てる底知れぬ情熱の源は、いったい何なのだろうか。

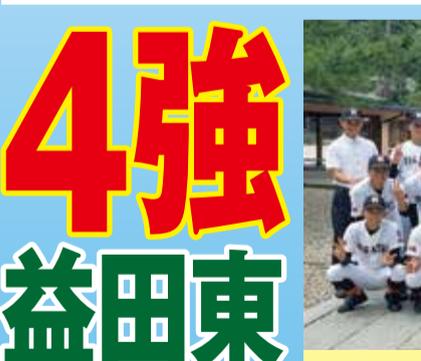


神楽部部長 3年 小室 光樹(日原)

JAしまねより
支援金を
いただきました。

第103回 夏の高校野球 島根大会 島根県2連覇ならず

「ノーシードから勝ち上がった意地もあり、粘り強く攻守ともに最後まで諦めずによく頑張った。昨年は県大会を制したが、コロナにより甲子園大会が中止になったので、今年こそはという強い思いはあった。選手は持てる力を存分に押し切り、よくやると労をねぎらいたい。またゼロからやり直す。」と闘志を秘めた胸の内を語った。



監督から野球部員へのメッセージ

1. 帰省したら、必ず家族に高校野球の感謝を自分なりの言葉で心をこめて伝えること。
2. 制服を着て靴を履き、帰省して一番にチームや中学校へ挨拶に行くこと。
3. 益田東高校の生徒として、野球部員として、自覚し責任ある行動をすること。

※益田東高校の看板は常に掛かっているの、恥じない行動でリフレッシュの夏休みに!

主将 3年 武原 雅斗(亀井)

東京オリンピックの夏 それぞれの甲子園をめざして 熱く燃えた

野球部

紀の国わかやま総文2021 第67回文部科学大臣旗全国高等学校弁論大会



2年 榎並 愛斗(高津)

全国高等学校総合文化祭弁論部門は7月31日(土)・8月1日(日)に、和歌山県高野山大学黎明館で開催され、コロナ禍で直前棄権もあの中、全国から67名が集った。世界遺産である標高800mの高野山は、下界とは違いクーラーが不要なほどの涼しさ。榎並は大会1日目の13番目に登場。伝統芸能や祭りは地域が一つになれる素晴らしい文化。伝統と革新を融合させた神楽をこれからも厳かに舞っていきたく、6分30秒の堂々たる発表を終えた。

弁論 全国大会

令和3年度 北信越高校総体 第66回 全国高等学校弓道大会



3年 嶽 明里(益田)

全国高等学校総合体育大会弓道部門は7月29日(木)~7月31日(土)に、新潟県謙信公武道館で開催された。島根県大会を8射8中でインターハイ出場権を勝ち取った嶽は、予選を4射3中で突破し準決勝に進出したが、4射2中で残念ながら決勝には進めなかった。「輝け君の汗と涙一走れ北信越の大地をとべ北信越の天空へ」のスローガンのもと、全国の強豪たちと渡り合った嶽には、自信と誇りに満ちた爽やかな笑顔があった。

弓道部

4強 益田東

本命の力は出し切れなかったが、持てる力はしっかり出し切った。

監督から野球部員へのメッセージ

ゲームキャプテン 3年 藤波 翔(瀬崎)

埼玉県から大庭監督に魅せられて島根入りした。器用な選手でチーム随一の打撃力がある。ここぞという時には繋げてくれる勝負強さも持っている。「島根に来て、人として成長することができた。すべての人たちに感謝したいです。」と頼もしい好青年である。